

科目名	調査分析特講	担当者	タナカ ケンイチロウ 田中 堅一郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義の目的は、①調査の種類、その中でも質問紙法（アンケート調査）と面接調査（ヒアリング調査）について学習し、実際に調査票を作成し、面接計画を作ることを目的とする。②調査分析に必要な統計手法について学習し、実際に分析できることを目的とする。</p> <p>I. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的な考察を通じて、具体的克論理的な見解を示すことができ、その限界を認識することができる。【A-3:4】</p> <p>II. データを分析し、分析結果の意味を理解し、問題を解決することができる。【A-4:3】</p> <p>III. 経験や学修から得られた知識や教養に基づき、倫理的な課題を理解し説明できる。【A-1:1】</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>データを注意深く読み取り、適切な分析を行うことができ、分析結果を客観的に解釈することができる。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> データを収集するための調査票を作成することができる（もしくは調査的面接を計画することができる）。 データ分析に必要な統計学的知識を理解することができる。 データ分析に必要なコンピュータ・リテラシーを身につけられる。 収集されたデータを、統計学的知識と統計パッケージのリテラシーを駆使して分析し、分析した結果を解釈することができる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> レポートの推敲過程において、Manaba-Folio の全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に、想定される質問とその回答を纏めた「Q & A」を公開する。さらに「スレッド」に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。 オープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。 <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folio を通して適宜科目担当者に質疑をする。</p> <p>【学修時間】</p> <p>1つのレポート課題の完成までに最低 45 時間の学習時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本教材および参考文献の読み込み：20 時間 レポート課題の執筆：10 時間 Manaba-Folio へのレポート課題提出後の推敲と最終稿の完成（担当教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15 時間 		
スケジュール	<p>前期：基本教材 1 のレポート課題 1：6 月末を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9 月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>基本教材 1 のレポート課題 2：8 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9 月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：基本教材 2 のレポート課題 1：11 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2020 年 1 月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>基本教材 2 のレポート課題 2：12 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2020 年 1 月中旬までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	79%	<ul style="list-style-type: none"> 最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、(原則的に) 0 点となります。 レポート課題の作成において、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います（こうしたレポートは評価の対象としません）。教材の引き写しは評価の対象外とします。
	平常評価	21%	<ul style="list-style-type: none"> 最終提出までに Manaba-Folio 上でレポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。 草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は 79 点以下しか得られません。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> レポート作成にあたって文献を引用した場合は、それらすべてをレポートの巻末に示してください。その際、本文に引用した文献（引用文献）と、本文には引用しなかったがレポート作成に際して参考にした文献（参考文献）とは仕分けて示してください。 要覧にもあるように、後期課題のレポートでは、意味ある情報を的確に、かつ少数の値に集約して表現し、それらの値を効率よく記述しわかりやすく示すこと。表や図をレポートに提示する場合は、必ず通し番号とその表題をつけること。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 鈴木淳子 教材名： 『質問紙デザインの技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2016年） (1) ISBN:978-4-7795-1075-5 2,800円+税 著者名： 鈴木淳子 教材名： 『調査的面接の技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2005年） (2) ISBN:978-4-88-848960-7 2,500円+税</p> <p>(1)は、主として心理学で用いられる調査法の概要とその手法について解説したもの。 (2)は、研究方法としての面接・インタビューの概要とその手順について詳細に解説したもの。</p>
参考図書	<p>大竹恵子（編著）『なるほど！ 心理学調査法』（北大路書房，2017年） ISBN:978-4-7628-2990-1 2,200円+税 鎌原雅彦他（編著）『心理学マニュアル 質問紙法』（北大路書房，1998年） ISBN:978-4-76-282109-7 1,500円+税 保坂亨他（編著）『心理学マニュアル 面接法』（北大路書房，2000年） ISBN:978-4-76-282170-7 1,500円+税</p>
履修上のポイント	<p>レポート課題における「①質問紙（アンケート調査）を行う手順」と「②質問紙法の実施方法の違いによる区分と、それらの長所と短所」は、教材の『質問紙デザインの技法』を参考にし、「③面接調査（ヒアリング調査）を行う手順」と「④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と、それらの長所と短所」は、教材の『調査的面接の技法（第2版）』を参考にする。</p>
レポート課題 1	<p>以下に示す項目について、教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①質問紙法（アンケート調査）を計画し実施するまでの手順 ②質問紙法（アンケート調査）の実施方法の違いによる区分と、それらの長所と短所 ③面接調査（ヒアリング調査）を実施するまでの手順 ④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と、それらの長所と短所 留意点：各項目あたり2,000字以内を目安に説明すること。</p>
レポート課題 2	<p>以下の2項目のうち、一つを選ぶこと： ①任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について、調査内容をまとめ、実際に質問紙（アンケート）を作成する。 ②任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について、調査内容をまとめ、ヒアリング調査計画書と調査に必要な書類を作成する。 留意点：教材と参考書をよく読んで作成すること。調査票の作成にあたっては、調査後に分析がしやすいように配慮すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 南風原朝和（著） 教材名： 『心理統計学の基礎』（有斐閣アルマ，2002年）ISBN:4-641-12160-5 2,200円+税</p> <p>この教材は、統計的手法について詳細に解説したものである。</p>
参考図書	<p>村井潤一郎・柏木恵子『ウォームアップ心理統計』（東京大学出版会，2008年） ISBN:978-4-13-012046-3 2,000円+税 松尾太加志・中村知靖『誰も教えてくれなかった因子分析 数式が絶対に出てこない因子分析入門』（北大路書房，2002年）ISBN:978-4-76-282251-3 2,500円+税 繁樹算男・森 敏昭・柳井晴夫『Q & Aで知る統計データ解析 Dos and DON'Ts』（サイエンス社，2008年）ISBN:978-4-78-191186-1 2,450円+税</p>
履修上のポイント	<p>教材を読んでも統計学の基本がわからない場合は、参考図書の『ウォームアップ心理統計』（東京大学出版会）を参照すること。</p>
レポート課題 1	<p>以下に示す用語について、教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①偏相関 ②決定係数 ③標準偏回帰係数 ④因子負荷量 ⑤多重共線性 留意点：各用語あたり800字以内を目安に、3,000～4,800字の範囲で説明すること。説明には数式を用いてよい。ただし、その際に用いた記号について脚注をいれること。</p>
レポート課題 2	<p>与えられたデータをもとに、統計解析ソフト（Excel 統計 2012, ㈱社会情報サービス）を用いて以下に指定された分析を行い、その結果を要約すること。 ①すべての変数について度数分布、代表値、散布度を示す。 ②任意に2変数を選び相関図を描き、その相関図について相関係数を算出する。 ③3つ以上の変数を選び、重回帰分析法を実施する。 ④5つ以上の変数を選び、因子分析法を実施する。 留意点：分析用のデータは「調査分析特講」受講者が確定した後に大学院専用サイト（manaba folio）に添付する。統計解析ソフトの出力結果をそのままレポートにペースト・コピーして提出しないこと（ただし、掲載する図表をExcelで作成するのはかまわない）。</p>